

感染状況・医療提供体制の分析（1月26日時点）

【1月27日モニタリング会議】

区分	モニタリング項目 ※①～⑤は7日間移動平均で算出		前回の数値 (1月19日公表時点)	現在の数値 (1月26日公表時点)	前回との比較	これまでの最大値	項目ごとの分析	
感染状況	①新規陽性者数※1 (うち65歳以上)		4,555.3人 (245.1人)	10,466.9人 (683.6人)		10,466.9人 (2022/1/26)	総括コメント	大規模な感染拡大が継続している
	潜在・市中感染	②#7119（東京消防庁救急相談センター）※2における発熱等相談件数	105.7件	148.3件		209.7件 (2021/8/16)	新規陽性者数は過去最多となり、さらに感染が拡大すれば、社会機能の低下を余儀なくされる。65歳以上の新規陽性者数の7日間平均も、前回と比べて約3倍に増加している。誰もが感染者や濃厚接触者になる可能性があることを意識し、自ら身を守る行動を徹底する必要がある。 個別のコメントは別紙参照	
		③新規陽性者における接触歴等不明者※1	2,988.1人	6,780.4人		6,780.4人 (2022/1/26)		
		数 増加比※3	406.4%	226.9%		1,091.7% (2022/1/9)		
医療提供体制	検査体制	④検査の陽性率（PCR・抗原）（検査人数）	21.3% (17,275人)	30.5% (24,366人)		31.7% (2020/4/11)	総括コメント	通常の医療を制限し、体制強化が必要な状況である
	受入体制	⑤救急医療の東京ルール※4の適用件数	203.0件	245.9件		245.9件 (2022/1/25)	高齢者の重症患者が増加しており、警戒する必要がある。急変時、症状が重い方や重症化リスクが高い方等が、速やかに適切な医療が受けられるよう、体制整備を進めるとともに、宿泊及び自宅療養体制の充実が必要である。 個別のコメントは別紙参照	
		⑥入院患者数 (病床数)	1,805人 (5,015床)	3,027人 (6,189床)		4,351人 (2021/9/4)		
		⑦重症患者数 人工呼吸器管理（ECMO含む）が必要な患者（病床数）	10人 (358床)	18人 (370床)		297人 (2021/8/28)		

※1 都外居住者が自己採取し郵送した検体による新規陽性者分を除く。

※2 「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口

※3 新規陽性者における接触歴等不明者の増加比は、絶対値で評価

※4 「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

【参考】VRSデータによる都民年代別
ワクチン接種状況(1月25日現在)

都内全人口

接種対象者（12歳以上）

高齢者（65歳以上）

1回目78.3%

2回目77.6%

1回目86.3%

2回目85.6%

1回目92.5%

2回目92.2%

総括コメントについて

1 感染状況

＜判定の要素＞

- モニタリング項目に加え、地域別の状況やワクチン接種の状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、感染状況を総合的に分析

＜総括コメント（４段階）＞

-  大規模な感染拡大が継続している／感染の再拡大の危険性が高いと思われる
-  感染が拡大している／感染状況は拡大傾向にないが、警戒が必要である
-  感染拡大の兆候がある（と思われる）／感染状況は改善傾向にあるが、注意が必要である
-  感染者数が一定程度に収まっている（と思われる）

2 医療提供体制

＜判定の要素＞

- モニタリング項目に加え、療養者の年齢構成、重症度、病床の状況やワクチンの接種状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、医療提供体制を総合的に分析

＜総括コメント（４段階）＞

-  体制がひっ迫している／通常の医療が大きく制限されている（と思われる）
-  通常の医療を制限し、体制強化が必要な状況である／通常の医療が一部制限されている状況である
-  体制強化の準備が必要な状況である／通常の医療との両立が可能な状況である
-  平時の体制で対応可能であると思われる／通常の医療との両立が安定的に可能な状況である

（注）通常の医療：新型コロナウイルス感染症以外に対する医療（がん、循環器疾患等の医療）